

## 水種新品種「ハマミノリ」について

岩下友記・新屋明・松元幸男・山川恵久

(鹿児島県農業試験場)

WASHITA, T., SHINYA, A., MATSMOTO, S. and YAMAGAWA, Y.

A New Variety of Paddy Rice Plant "Hamaminori"

水稲西南19号は昭和41年から高知県、熊本県、鹿児島県、において奨励品種に採用され通称名を「ハマミノリ」として普及に移されることになったので、育成の経過ならびに特性の概要について述べ、参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は朝隈純隆外6名と筆者などである。

## 来歴ならびに育成経過

ハマミノリは昭和29年青森県農業試験場藤坂支場で「藤坂5号」を母とし「(愛知旭×東山38号)F<sub>1</sub>」を父として三系交配を行ない、同年温室内でF<sub>1</sub>を栽培し翌30年F<sub>2</sub>を集団栽培して採種を行なった。昭和31年F<sub>3</sub>種子の一部を鹿児島県農業試験場育種部に分譲し同場において集団育種法と系統育種法により育成されたものである。昭和38年以降「西南19号」の系統名を付して関係府県に配布し地方的適否を確かめ昭和41年2月(F<sub>15</sub>)、水稲農林180号に登録され通称名をハマミノリと命名された。

## 特性概要

## 1. 形態的特性

稈長はコシヒカリと同程度である。稈はやや太く強稈性の中間型で成熟期の草状熟色は特に良好である。稈先色は白、無芒、脱粒性難、粒着密度中、玄米の太さは中の上ないし上の下程度でコシヒカリにわずかにおよびないが上質で食味は良好である。

## 2. 性態的特性

出穂期、成熟期は大體コシヒカリと同程度の早生種であり葉イモチ、首イモチには強く紋枯病は強くないしやや強、倒伏性も強くないしやや強でコシヒカリ、越路早生よりも強稈、穂発芽性については越路早生とほとんど同程度で、収量はコシヒカリよりも若干上まわる程度である。

## 3. 適地および奨励品種採用県

第1表 一般特性

| 品種名         |                    | ハマミノリ               |                | コシヒカリ(比) |  |
|-------------|--------------------|---------------------|----------------|----------|--|
| 形質          |                    |                     |                |          |  |
| 出穂期(月日)     | 7/8                | 5/5                 | 7/8            | 5/5      |  |
| 成熟期(月日)     |                    | 早生                  | 早生             |          |  |
| 稈長(cm)      | 83                 |                     | 83             |          |  |
| 穂長(cm)      | 19.3               |                     | 18.3           |          |  |
| 本穂数(20株平均)  | 16.3               |                     | 19.0           |          |  |
| 草型          | 中稈 中間型             |                     | 中稈 中間型         |          |  |
| 芒の多少        | △                  |                     | △              |          |  |
| 稈先粒着        | 白粒 中               |                     | 白粒 中           |          |  |
| 短色性         | 中                  |                     | 中              |          |  |
| 密着          |                    |                     |                |          |  |
| 玄米          | 千粒重(g) 品質 食味       | 22.0 中(上)~上(下) 上(下) | 19.6 上(下) 上(下) |          |  |
| a 当り玄米重(kg) |                    | 40.5                | 39.5           |          |  |
| 安           | 倒伏性 穂発芽性           | 強~やや強 易             | 弱 難            |          |  |
| 全           | 葉イモチ 首イモチ 紋枯病 縞葉枯病 | 強 やや強 強 中           | 弱 弱 強 中        |          |  |
| 生           | 耐病性                |                     |                |          |  |

九州、四国、中国地方の西南暖地早期栽培地帯では一応どこでも適する。早生、強稈、多収で耐病性のうち、とくにイモチ病耐病性に優つているのでイモチ病多発地帯では安定した品種としてすぐれているものとおもわれる。昭和41年度より高知、熊本、鹿児島県の各県で奨励品種に採用された。

## 4. 栽培上の注意

早生種であるから暖地移植栽培において苗代日数はコシヒカリと同程度とし、それよりあまりおくらせないように心掛ける。穂発芽性も越路早生程度で易の方に属しているからそれを誘発させるようなとり扱いをしないこと、また玄米の千粒重が早生品種としては大きいので適期収穫を行ない、その後の乾燥法などに留意し品質の悪化防止に心掛けること。

## 5. 命名の由来

暖流をのぞむ地帯において稔り豊かな品種であることを意味する。